令和８年度第２回松阪地域高等学校活性化推進協議会

配 付 資 料

○ 令和8年度 松阪地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿 ‥ Ｐ １

○【 資 料 １ 】令和8年度第1回松阪地域高等学校活性化推進協議会の概要 ‥ Ｐ ２

○【 資 料 ２ 】学校施設の老朽化の状況 ‥ Ｐ ４

○【 資 料 ３ 】高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）【概要】～2040年に向けた「N-E.X.T（ネクスト）ハイスクール構想」～ ‥ Ｐ ５

○【 資 料 ４ 】新しいタイプの全日制高校「みえ版フレキシブル高校」について ‥ Ｐ ７

～～～再掲資料（第1回松阪地域高等学校活性化推進協議会 配付資料）～～～

○【再掲資料１】松阪地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況 ‥ Ｐ ９

○【再掲資料２】松阪地域 中学校卒業者数の推移と予測（含社会増減） ‥ Ｐ１０

○【再掲資料３】松阪地域の中学校卒業者数と県立高等学校入学定員（全日制）の推移と予測 ‥ Ｐ１１

○【再掲資料４】松阪地域および伊勢志摩地域の高等学校等の学科・コースについて ‥ Ｐ１２

○【再掲資料５】松阪地域の県立高校に関するアンケート結果について ‥ Ｐ１３

○【再掲資料６】松阪地域の全日制高校の学びの配置状況（令和9年度） ‥ Ｐ２１

○【再掲資料７】松阪地域の県立高校卒業生（全日制）の進路状況（令和8年3月卒） ‥ Ｐ２２

○【再掲資料８】県立高等学校（全日制）への通学時間の目安 ‥ Ｐ２３

○【再掲資料９】松阪地域の県立高等学校（全日制）への交通手段等 ‥ Ｐ２４

○【再掲資料10】令和22年度までの松阪地域の県立高等学校（全日制）の総学級数について ‥ Ｐ２６

○【別冊資料１】令和8年度松阪地域高等学校活性化推進協議会のまとめ（案）

○【別冊資料２】県立高等学校活性化計画（中間案）

令和８年度　松阪地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿

Ｎｏ		所属及び名前
1	学識経験者	三重大学　地域イノベーション学研究科　准教授　水木　千春
2	地域有識者	松阪商工会議所　事務局長　井村　彰
3		多気町商工会　　事務局長　　高橋　勝利
4		大台町商工会　　事務局長　　上岡　万紀子
5	市町教育委員会教育長	松阪市教育委員会　教育長　　中田　雅喜
6		多気町教育委員会　教育長　　小林　真一
7		明和町教育委員会　教育長　　森井　義和
8		大台町教育委員会　教育長　　福岡　佳久
9	県立高等学校長代表	県立松阪高等学校　校長　　柘植　三治
10	小中学校長代表	松阪市立殿町中学校　校長　　尾﨑　充
11	小中学校ＰＴＡ代表	松阪市ＰＴＡ連合会　代表　　森本　悠揮
12		多気郡ＰＴＡ連合会　代表　　堀川　真澄
13	高等学校ＰＴＡ代表	松阪地区高等学校ＰＴＡ連合会　代表　鈴木　寛子
14	小中学校教職員代表	松阪市立山室山小学校　　教諭　西川　弘規
15	高等学校教職員代表	県立松阪商業高等学校　　教諭　髙橋　春生

資料1

令和８年度第１回松阪地域高等学校活性化推進協議会の概要

１　日時　　令和８年７月７日（火曜日）１８時３０分から２０時４０分まで

２　場所　　三重県松阪庁舎　大会議室

３　概要

令和１０～１１年度に想定される合わせて５学級程度の学級減への具体的な対応について、今年度中に方向性をとりまとめることから、今後の学びと配置のあり方の方針や、１５年先の学びと配置のイメージについて協議しました。

主な意見は次のとおりです。

（学びのあり方について）

○　小学校段階から、自分の興味関心や将来の夢に応じて、具体的にこの高校に行きたいと考えている子どもたちも多い。松阪地域の高校には、多様な選択肢がバランスよく配置されており、こうした高校がなくならないようにしてほしい。（西川委員）

○　地域で活躍する人材を育成するという方針は大切にしてほしい。子どもたち一人ひとりのニーズに対応した教育環境を提供するためには、規模縮小のデメリットを過小評価せず、規模確保のメリットを重視すべきではないか。（井村委員）

○　生徒数の減少に伴い教職員数も減少することから、子どもたちに必要な学びを提供するためには、教職員をサポートする体制が重要ではないか。また、高校の将来像を検討するにあたり、国や県からガイドラインや方向性は示されているのか。（森本委員）

⇒（事務局）国からは、今年２月に「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）～２０４０年に向けたネクストハイスクール構想～」が示され大規模な予算が投入されることになっている。これらもふまえながら、本年度中に次期県立高等学校活性化計画を策定することとしている。

○　小規模校に勤務した経験があるが、学級減により教員数が減ると学びのバリエーションが減ってしまい、子どもたちに必要な教育を提供することが難しくなる。大きな変革の時期を迎える中で、子どもたちが希望する学びがなくならないような配置を地域全体で考える必要がある。（柘植委員）

○　国が掲げるネクストハイスクール構想と三重県がめざす姿を一致させ、生徒ファーストで協議を進めることが大切である。単に減るから集約するということではなく、各校が積み上げてきた機能をさらに磨きつつ、新たな価値を創造していくという発想で、松阪地域にどんな学校を創るのかを考えていきたい。（鈴木委員）

○　南勢地区から北・中勢地区へと人口が流出している現状をふまえ、国の高校教育改革も活用して、既存の枠組みにとらわれない新たな学びの拠点を南勢地区に創設するということをぜひ記載してほしい。（中田委員）

（配置のあり方について）

○　松阪地域では多くの生徒が地域外の高校へ進学している。基本的に地域の高校で学びたいという子どもたちが全員入学できるようにすべきであると考えるが、中学校卒業者数が１，８１１人（令和８年３月卒）であるのに対し、県立高校の定員は１，０００人となっている。このことについてどのように捉えているのか、令和１０～１１年度の５学級減の根拠ともなるので説明してほしい。（中田委員）

⇒（事務局）私立高校への進学者のほか、定時制課程や通信制課程へ進学する生徒も一定数いることから、中学校卒業者数と県立高校（全日制）の定員には差が生じる。

○　中学校３年生のほとんどが、当初は地元の高校への進学を希望しているものの、学力的な面から最終的に他地域の高校を選ぶ生徒も一定数いるという現状がある。子どもたちが高校進学を楽しみにしている中で、現在の中学校２年生は１学級減、中学校１年生は４学級減というのを、どのように示していくのかを考えなければならない。（尾﨑委員）

○　入学者選抜をすることなく、全員が希望する高校へ入学できるようにすることはできないのか。（高橋勝利委員）

⇒（事務局）一つの考え方ではあるが、選ばれない学校が生じる可能性もあるので、子どもたちの多様な希望が実現できるよう、バランスよく高校を配置する必要がある。

○　「学びと配置のあり方の方針」に異論はないが、そうなると学校数の減少は避けられない。通学圏内にある津地域や伊勢志摩地域の高校を含めて、子どもたちが学校を選択している現状をふまえ、もっと広域で高校のあり方を議論する場も必要ではないか。（髙橋春生委員）

○　地域の事業所は、地域の高校と一体となっていろいろな活動を行ってきた。高校生の活力は地域にとって不可欠であり、地域と高校のつながりについては、今後もしっかりと考えていく必要がある。（高橋勝利委員）

○　数の論理でいけば、生徒数の減少により再編が必要であることは理解できる。一方で、地域の県立高校それぞれが、一生懸命魅力づくりに取り組んでいることから、現場の教員の意見をしっかりと把握した上で検討を進めてもらいたい。（福岡委員）

○　将来の学校数が前面に出ると、子どもたちや保護者はどの学校がなくなるのかと不安になるので、「現在の６校は３校程度に集約される」という表現はやめてほしい。子どもたちのニーズや社会状況をふまえて、集約する学校でどのような学びを実現するかを考えた上で学校数を決定していくという表現にしてはどうか。（中田委員）

（今後の協議の進め方について）

○　学級減の中にあっても、子どもたちが夢を持てるような未来志向の視点で、次回改めて「１５年先の学びと配置のイメージ（案）」を示してもらいたい。（水木会長）

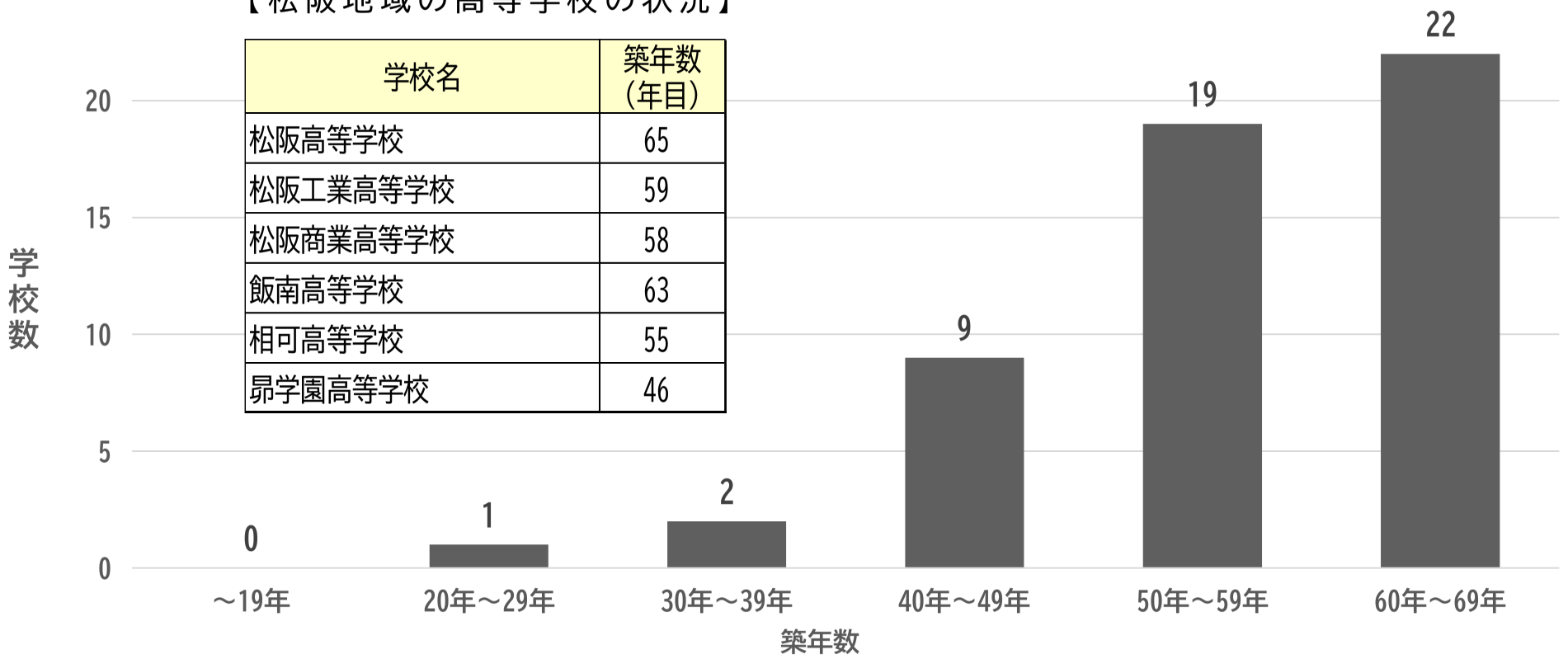
⇒（事務局）昨年度までの協議や本日いただいたご意見を整理し、本年度とりまとめることとしている令和１０～１１年度に想定される学級減への対応と併せて、協議を進めるための具体案をお示ししたい。

資料2

学校施設の老朽化の状況

【松阪地域の高等学校の状況】

学校名	築年数（年目）
松阪高等学校	65
松阪工業高等学校	59
松阪商業高等学校	58
飯南高等学校	63
相可高等学校	55
昴学園高等学校	46



【備考】
※１　各県立高等学校（全日制）の主たる校舎の築年数（令和８年３月31日時点）
※２　熊野青藍高等学校については、木本校舎と紀南校舎をそれぞれ１校として計算している。また、木本高等学校と紀南高等学校については、熊野青藍高等学校と同一の校舎であるため、学校数に含めていない。
※３　南伊勢高等学校南勢校舎については、令和８年３月31日をもって閉校したため、学校数に含めていない。

令和８年度第１回教育改革推進会議資料一部加工

高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）【概要】
～2040年に向けた「N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想」～

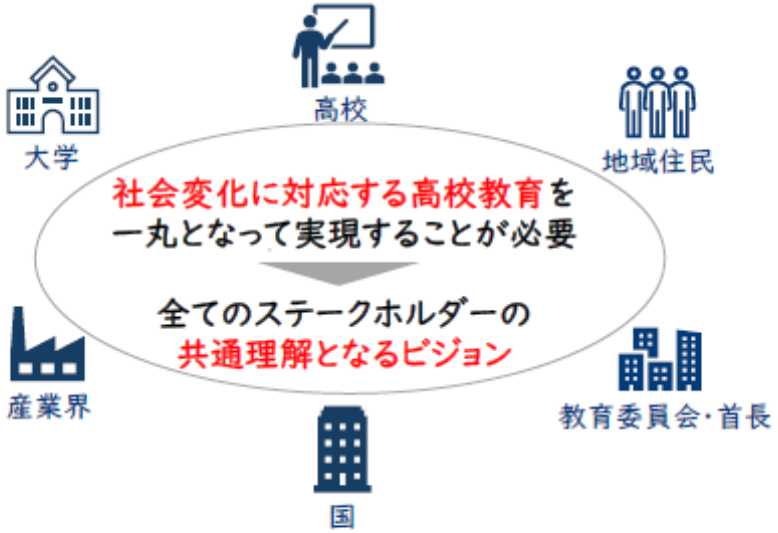
資料3

New Education, New Excellence, New Transformation of High Schools

1. グランドデザインの背景・必要性

✓ AIの実装などデジタル技術の目まぐるしい発展
2040年には、少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化
→現在の人材供給トレンドが続けば、労働力需給ギャップが発生
（事務職は余剰、AI・ロボット関係、いわゆる理系人材は不足）

✓ 将来を正確に予測することは難しく、どのような未来が訪れるか分からない
→生徒それぞれの多様な個性やニーズ、興味・関心に応じた学びを生かした自己実現を支え、生徒の可能性を広げ能力を伸ばす
→全ての高校生が家庭の経済状況等に左右されることなく、希望する大学等への進学や就職等をし、それが個人の幸福につながり、ひいては、我が国の経済・社会の基盤を強いものとしていくことにつながる



2. 高校改革の方向性～2040年に向けた高校の姿～

視点1 不確実な時代を自立して生きていく主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長

学びの在り方の転換（New Transformation）

✓ リアルとデジタルの良さを組み合わせつつ、「好き」を育み、「得意」を伸ばす機会を確保し、生徒の実態を踏まえた柔軟な教育課程の実現
✓ スクール・ミッション、スクール・ポリシーを踏まえた教育活動の改善、公表
✓ 高校教育と一貫した大学教育改革（主体的・自律的な学修のための環境構築、出口における質保証等）

視点2 我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成

最先端を学ぶ高校の特色化・魅力化（New Excellence）

✓ 探究・文理横断・実践的な学び、STEAM教育、産業界と協働した専門高校の学びの充実
➡ 理数・文系的素養やAIを使いこなす力を身に付け、社会で活躍するロールモデルを体感

✓ 各高校の特色化・魅力化
➡ 学科構成の見直し、専門高校の機能強化・高度化、グローバル人材の育成
➡ 「普通科」の在り方の転換、即戦力の人材と進学を見据えた高度専門職人材の育成

視点3 一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

学ぶ機会・アクセスの確保（New Education）

✓ 全国どこにいても多様で質の高い学びを保障し、地方の生徒はもとより誰一人取り残されず、全ての生徒の可能性を最大限引き出す
（地理的アクセスの確保、都道府県の実情等に応じた学校配置・規模の適正化、小規模校を含む遠隔授業等の推進）
✓ 通信制高校の教育の質の確保・向上
✓ 不登校生徒への学習支援、特別支援教育や日本語指導が必要な生徒への教育の充実

3つの視点を重視しながら、更なる高校改革を進め、N-E.X.T.ハイスクール構想を実現する。
高校から大学・大学院に至るまでの一貫した改革により、強い経済や地域社会の基盤となる人材を育成する。

3. N-E.X.T.ハイスクール構想の中核となる高校支援

国の
高校教育改革に関するグランドデザイン策定

都道府県 実行計画策定

総合教育会議等を活用し、地域別就業構造の推計や人口の将来推計等を踏まえて検討。首長、関係部局、大学、地域の関係者や産業界との連携・協働を図る。

安定財源を確保した上で、交付金等の新たな財政支援の仕組みの構築

基金の執行状況等を踏まえ、R9年度予算の編成過程で検討。

※交付金等の構築に先立ち、高校教育改革のための基金を都道府県に造成し、N-E.X.T.ハイスクール構想の実現のために、パイロットケースとして先導的な学びの在り方を構築する高校（改革先導拠点）を創設。

新しい学校のイメージや取組例

専門高校の機能強化・高度化（アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成等）

（学校のイメージ）
地域発のイノベーションを興すことのできる人材等の育成を目指し、理論と実践の往還によるカリキュラムの実施等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

（取組例）
- ✓ ビジネス経験の必修化
- ✓ ものづくりから流通まで一体的な学びの実践
- ✓ 「高校版企業寄附講座」等の実践やそれを前提とした進学・就職機会の確保

普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化（文理の双方の素養を有する人材の育成等）

（学校のイメージ）
文理にとらわれない幅広い教養等を備えた新しい価値を創造する人材等の育成を目指し、実社会につながる生きた授業の実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

（取組例）
- ✓ 実社会につながる生きた授業の実践
- ✓ 高度実験環境を核とする理数探究拠点整備
- ✓ 探究型授業研修の充実による教師のスキル向上、探究伴走支援専門チームの構築

地理的アクセス・多様な学びの確保

（学校のイメージ）
学校の枠を超えて多様な人々と協働し、社会の課題を主体的に探究・解決できる人材等の育成を目指し、柔軟で質の高い学びの実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

（取組例）
- ✓ 学校間連携や遠隔授業等を活用した教育機会の確保
- ✓ 学校と地域の関係機関の連携・協働の強化による学習環境の提供
- ✓ 他の学校種との連携の充実

これらの取組の一環として、留学支援を含むグローバル人材育成支援や、学校と地域が連携・協働した学力向上・学習支援などについて取り組む。

2040年までに達成を目指す目標

【職業教育の高度化・魅力の強化関係】
・地域の産業界等と連携・協働した取組を行う専門高校：100%
・少子化傾向においても専門高校の生徒数を現在と同水準

【普通科の在り方の転換・魅力の強化関係】
・文理横断的な学びに取り組む普通科高校：100%
・普通科でいわゆる文系と理系の生徒の割合：同程度

【多様な学びの確保関係】
・学びの状況に関する生徒の肯定的な評価の向上
・高校卒業段階の進路未決定者の割合の半減

資料4

新しいタイプの全日制高校「みえ版フレキシブル高校」について

１　設置の背景

・近年、不登校経験をはじめ多様な背景を有する生徒が増えており、定時制・通信制高校への入学者が増加していることもその一例です。
・高校生の学習ニーズや学習スタイルの多様化が見られることから、生徒一人ひとりの学びのニーズに寄り添える柔軟な教育の仕組みが求められています。

２　概要

・「フレキシブル高校」とは、 全日制・定時制・通信制の課程の授業を、生徒が在籍課程を変更することなく横断的に履修できる新しい制度の高校です。
・「みえ版フレキシブル高校」では、生徒は全日制課程に在籍しながら、連携する他校の定時制・通信制の授業を履修できる新しい学びのスタイルとなります。
・柔軟な学習スタイルにより、不登校経験者や体調面で朝からの通学が難しい生徒も、安心して全日制高校で学ぶことができます。

３　設置校および連携校

・桑名北高校、久居高校、尾鷲高校の３校をパイロット校とし、入学定員の一部に「フレキシブルコース」を設けて運用を開始します。
・【募集人数】　入学定員の 20%以内
・【応募資格】　志願校が実施するフレキシブル高校についての説明会等に出席し、フレキシブル高校の趣旨や学習スタイルについて理解するとともに、フレキシブル高校を志望する動機や理由が明確である者

設置校	学科・クラス数（人数）	連携校（課程）
桑名北高校	普通科・４クラス（１６０人）	北星高校（通信制）
久居高校	普通科・４クラス（１６０人）	松阪高校（通信制） みえ夢学園高校（定時制）
尾鷲高校	普通科・２クラス（７０人）	松阪高校（通信制） 尾鷲高校（定時制）

*普通科の定員の一部に「フレキシブルコース」を設けます。
*尾鷲高校の他の学科・コースは該当しません。

４　運用開始時期

令和９年４月

５　「みえ版フレキシブル高校」の仕組み・特色

・「みえ版フレキシブル高校」では、連携する他の定時制高校や通信制高校の授業を受け、そこで修得した単位を卒業単位に加えることができます。（卒業に必要な７４単位のうち、認定する単位数の上限は３６単位です）

・通信制高校での単位修得をめざす場合、必要なスクーリング*を平日に自校で受講することもできます。
・登校する日以外は、自宅で学習を進めたり必要に応じて学校で先生のサポートを受けたりしながら、自分のペースで学ぶことができます。
*スクーリング：登校して教員から講義や実技指導を受けること。

６　今後の取組

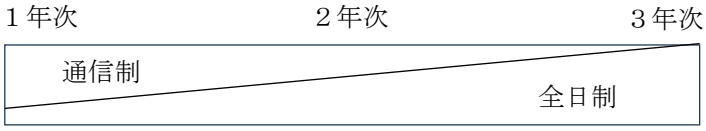
・令和８年度は、関心のある中学生が「みえ版フレキシブル高校」の仕組みや魅力を十分に理解し進路の選択肢として検討していただけるよう、パイロット校において個別の説明会等を実施します。
・令和９年度からの運用開始にむけて、準備を進めていきます。

「みえ版フレキシブル高校」のイメージ（例）

＜パターン１＞【桑名北高、尾鷲高】　登校日がフレキシブル（１年次の時間割の例）

	月	火	水	木	金
1					情報Ⅰ
2		体育			家庭
3		芸術Ⅰ	体育		家庭
4		芸術Ⅰ	情報Ⅰ		体育
5			総探		
6			ＬＨＲ		

・網掛けが登校日。（自校で授業を受ける日）
・他校の通信制課程を併修。
・登校日以外は、自校でスクーリング受講またはレポート作成。（自宅での学習も可）

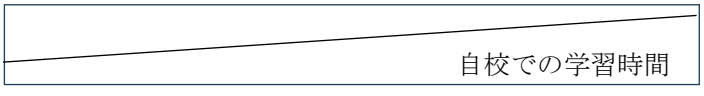


＜履修のイメージ＞
２年次以降は登校日を増やしていきます。

＜パターン２＞【久居高】　登校時間がフレキシブル

朝	１限	8:30～ 9:20	自校で学習または他校の通信制課程を履修
	２限	9:30～10:20	
共通タイム	３限	10:30～11:20	自校で学習
	４限	11:30～12:20	自校で学習
	昼休み ＳＨＲ	12:20～13:10	
	５限	13:10～14:00	自校で学習
	６限	14:10～15:00	自校で学習
夕	７限		他校の定時制課程を履修

・網掛けが必ず登校する時間帯。（共通タイム）
・共通タイムは全ての生徒が登校。（朝、夕は選択制）
・共通タイムのみでは卒業単位に満たない場合、他校の通信制や定時制との併修も可能。（選択制）
・スクーリングは連携校で受講。



＜履修のイメージ＞
２年次以降は自校での学習時間を長くしていきます。

松阪地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況

再掲資料１

（1）令和8年3月卒・現高1

学校名	学科・コース	入学定員	R7.12時点の進学希望者数	定員との差	前期選抜等 募集定員	志願者数	志願倍率	合格内定者数	後期選抜 募集定員	志願者数	志願倍率	合格者数	再募集 募集定員	志願者数	合格者数	入学者数	欠員
松　阪	普通	200	124	▲ 76	-	-	-	-	200	162	0.81	200	-	-	-	201	0
	理数	80	184	104	40	187	4.68	41	39	98	2.51	39	-	-	-	80	0
	学校計	280	308	28	40	187	4.68	41	239	260	1.09	239	-	-	-	281	0
松阪工業	機械	40	47	7	20	44	2.20	22	18	19	1.06	18	-	-	-	40	0
	電気工学	40	52	12	20	51	2.55	22	18	26	1.44	18	-	-	-	40	0
	工業化学	40	43	3	20	41	2.05	22	18	23	1.28	18	-	-	-	40	0
	繊維デザイン	40	56	16	40	56	1.40	40	-	-	-	-	-	-	-	40	0
	自動車	40	47	7	20	47	2.35	22	18	17	0.94	18	-	-	-	40	0
	学校計	200	245	45	120	239	1.99	128	72	85	1.18	72	-	-	-	200	0
松阪商業	総合ビジネス科	120	128	8	60	129	2.15	66	54	51	0.94	52	2	0	0	118	▲ 2
	国際ビジネス科	40	46	6	20	41	2.05	22	18	20	1.11	18	-	-	-	40	0
	学校計	160	174	14	80	170	2.13	88	72	71	0.99	70	2	0	0	158	▲ 2
飯　南	総合学科	80	63	▲ 17	40 連携型中高一貫教育に係る選抜は、定めていない 16	46	1.15 -	58	22	4	0.18	4	18	1	1	63	▲ 17
	学校計	80	63	▲ 17	40	62	1.15	58	22	4	0.18	4	18	1	1	63	▲ 17
相　可	普通	80	67	▲ 13	24	65	2.71	27	53	43	0.81	44	9	0	0	71	▲ 9
	生産経済	40	41	1	20	40	2.00	22	18	19	1.06	18	-	-	-	41	0
	環境創造	40	39	▲ 1	20	38	1.90	22	18	19	1.06	18	-	-	-	40	0
	食物調理	40	49	9	40	48	1.20	40	-	-	-	-	-	-	-	40	0
	学校計	200	196	▲ 4	104	191	1.84	111	89	81	0.91	80	9	0	0	192	▲ 9
昴学園	総合学科	80	34	▲ 46	80	56	0.70	56	-	-	-	-	24	0	0	56	▲ 24
	学校計	80	34	▲ 46	80	56	0.70	56	-	-	-	-	24	0	0	56	▲ 24
松阪地域（全日制）計		1,000	1,020	20	464	889	1.92	482	494	501	1.01	465	53	1	1	950	▲ 52

※「R7.12時点の進学希望者数」は、県内の国公私立中学校３年生を対象に実施した調査結果による。
※入学者数と合格者数の合計が一致しないことがあるのは追検査による合格者等を含むため

（2）令和7年3月卒・現高2

学校名	学科・コース	入学定員	R6.12時点の進学希望者数	定員との差	前期選抜等 募集定員	志願者数	志願倍率	合格内定者数	後期選抜 募集定員	志願者数	志願倍率	合格者数	再募集 募集定員	志願者数	合格者数	入学者数	欠員
松　阪	普通	200	163	▲ 37	-	-	-	-	200	157	0.79	200	-	-	-	200	0
	理数	80	186	106	40	189	4.73	40	40	125	3.13	40	-	-	-	80	0
	学校計	280	349	69	40	189	4.73	40	240	282	1.18	240	-	-	-	280	0
松阪工業	機械	40	48	8	20	47	2.35	22	18	24	1.33	18	-	-	-	40	0
	電気工学	40	32	▲ 8	20	29	1.45	22	18	12	0.67	18	-	-	-	40	0
	工業化学	40	34	▲ 6	20	40	2.00	22	18	18	1.00	18	-	-	-	40	0
	繊維デザイン	40	56	16	40	54	1.35	40	-	-	-	-	-	-	-	40	0
	自動車	40	66	26	20	61	3.05	22	18	20	1.11	18	-	-	-	40	0
	学校計	200	236	36	120	231	1.93	128	72	74	1.03	72	-	-	-	200	0
松阪商業	総合ビジネス科	120	115	▲ 5	60	116	1.93	66	54	58	1.07	54	-	-	-	120	0
	国際ビジネス科	40	32	▲ 8	20	34	1.70	22	18	18	1.00	18	-	-	-	40	0
	学校計	160	147	▲ 13	80	150	1.88	88	72	76	1.06	72	-	-	-	160	0
飯　南	総合学科	80	72	▲ 8	40 連携型中高一貫教育に係る選抜は、定めていない 15	60	1.50 -	59	21	24	1.14	21	-	-	-	80	0
	学校計	80	72	▲ 8	40	75	1.50	59	21	24	1.14	21	0	0	0	80	0
相　可	普通	80	102	22	24	92	3.83	27	53	64	1.21	53	-	-	-	80	0
	生産経済	40	46	6	20	43	2.15	22	18	23	1.28	18	-	-	-	40	0
	環境創造	40	57	17	20	53	2.65	22	18	22	1.22	18	-	-	-	40	0
	食物調理	40	41	1	40	39	0.98	39	-	-	-	-	1	2	1	40	0
	学校計	200	246	46	104	227	2.18	110	89	109	1.22	89	1	2	1	200	0
昴学園	総合学科	80	29	▲ 51	80	75	0.94	75	-	-	-	-	5	0	0	75	▲ 5
	学校計	80	29	▲ 51	80	75	0.94	75	-	-	-	-	5	0	0	75	▲ 5
松阪地域（全日制）計		1,000	1,079	79	464	932	2.01	500	494	565	1.14	494	6	2	1	995	▲ 5

※入学者数と合格者の合計が一致しないことがあるのは、追検査による合格者等を含むため
※「R6.12時点の進学希望者数」は、県内の国公私立中学校３年生を対象に実施した調査結果による。

松阪地域　中学校卒業者数の推移と予測（含社会増減）

再掲資料２

令和8年5月1日　教育政策課調べ

		R 5.3 卒業	R 6.3 卒業	R 7.3 卒業	R 8.3 卒業	R 9.3 現中３	R 10.3 現中２	R 11.3 現中１	R 12.3 現小６	R 13.3 現小５	R 14.3 現小４	R 15.3 現小３	R 16.3 現小２	R 17.3 現小１
松阪市	卒業者数	1,457	1,467	1,446	1,390	1,441	1,331	1,226	1,200	1,249	1,213	1,096	1,143	999
	前年度対比		10	-21	-56	51	-110	-105	-26	49	-36	-117	47	-144
	R8.3対比					51	-59	-164	-190	-141	-177	-294	-247	-391
多気郡	卒業者数	477	389	433	421	359	429	345	411	380	389	389	380	357
	前年度対比		-88	44	-12	-62	70	-84	66	-31	9	0	-9	-23
	R8.3対比					-62	8	-76	-10	-41	-32	-32	-41	-64
小計	卒業者数	1,934	1,856	1,879	1,811	1,800	1,760	1,571	1,611	1,629	1,602	1,485	1,523	1,356
	前年度対比		-78	23	-68	-11	-40	-189	40	18	-27	-117	38	-167
	R8.3対比					-11	-51	-240	-200	-182	-209	-326	-288	-455
県内合計	卒業者数	16,055	15,891	15,718	15,511	15,303	14,834	14,377	14,011	14,032	13,398	12,753	12,420	11,764
	前年度対比		-164	-173	-207	-208	-469	-457	-366	21	-634	-645	-333	-656
	R8.3対比					-208	-677	-1,134	-1,500	-1,479	-2,113	-2,758	-3,091	-3,747

【県立高校（全日制）】

松阪地域	入学定員（学級数）	1,040（26）	1,000（25）	1,000（25）	1,000（25）	1,000（25）
	欠員数※	17	14	5	52	-
県内合計	入学定員（学級数）	10,640（268）	10,440（263）	10,240（258）	10,000（252）	9,760（246）
	欠員数※	342	225	186	411	-

※伊賀白鳳高校は定員240人６学級規模を７学級、尾鷲高校は定員160人４学級規模を5学級として編制

※欠員数は、学科・コースごとの欠員のみを積み上げた数値

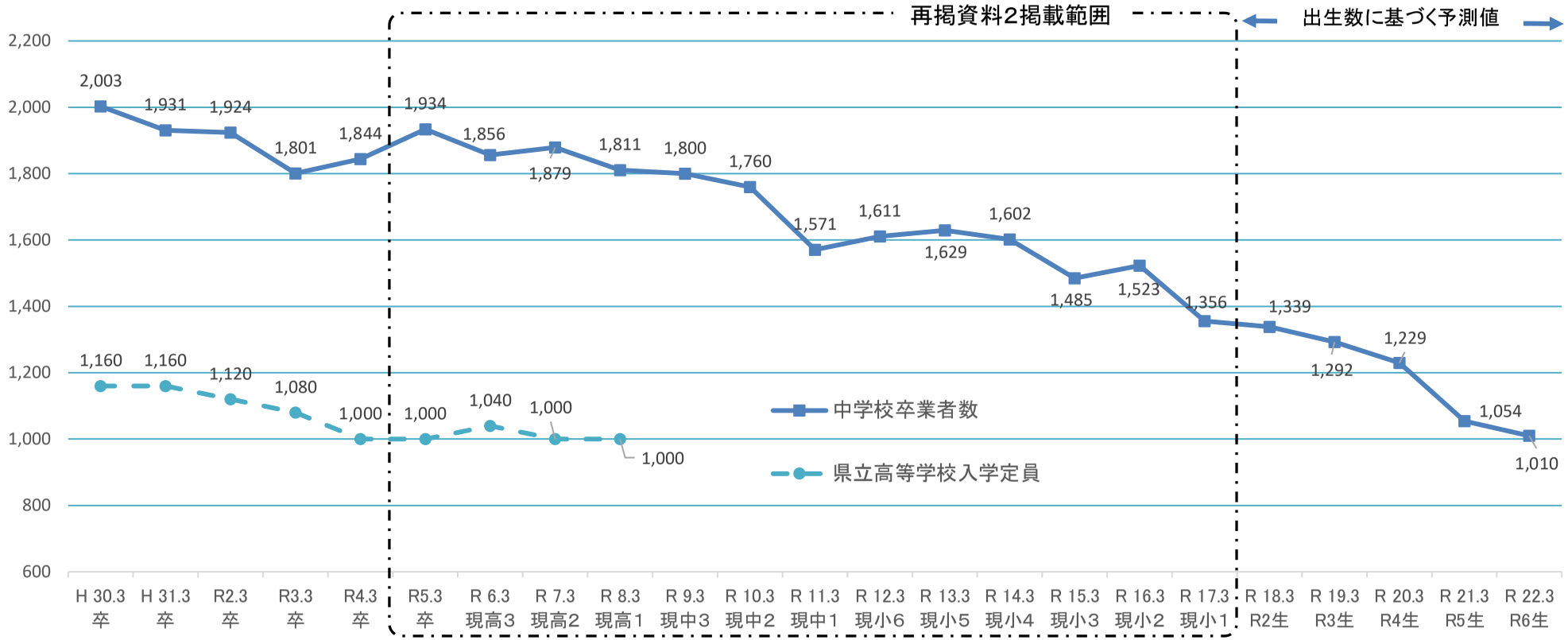
【私立高校（全日制）】

三重	入学定員	535	530	530	530	530
	入学者数	584	468	530	558	ー

※入学者数は、三重県公私立高等学校協議会の記載人数を転記。

再掲資料3

松阪地域の中学校卒業者数と県立高等学校入学定員（全日制）の推移と予測



※出生数に基づく予測値（令和2から令和6年度生まれを対象としたもの）は、昨年度時点のデータに基づいて作成しております。令和7年度の出生数が判明次第、資料を改めて提示いたします。

【松阪地域の出生数】

	R2年度生 5～6歳	R3年度生 4～5歳	R4年度生 3～4歳	R5年度生 2～3歳	R6年度生 1～2歳
松阪市	1,089	1,018	979	856	832
多気郡	264	281	259	209	191
合　計	1,353	1,299	1,238	1,065	1,023
予測値	1,339	1,292	1,229	1,054	1,010

松阪地域および伊勢志摩地域の高等学校等の学科・コースについて（令和9年度）

再掲資料４

		学校名	大学科	入学定員		1	2	3	4	5	6	7	8
松阪地域全日制課程	県立	松阪高校	普通科	280	1,000	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	理数科	理数科	全２５学級 普通科　９ 専門学科１２ （工業５） （商業４） （農業２） （家庭１） 総合学科　４
		松阪工業高校	専門学科	200		工業化学科	機械科	繊維デザイン科	自動車科	電気工学科			
		松阪商業高校	専門学科	160		総合ビジネス科	総合ビジネス科	総合ビジネス科	国際ビジネス科				
		飯南高校	総合学科	80		郷土・環境、介護福祉 総合進学、コンピュータ							
		相可高校	普通科 専門学科	200		普通科	普通科	生産経済科	環境創造科	食物調理科			
		昴学園高校	総合学科	80		地域探究、総合スポーツ 美術工芸、生活福祉、環境技術							
	私立	三重高校	普通科		530	普通科（ステラコース《特進クラス、選抜クラス》・ナービスコース《進学クラス、アスリートクラス》、六年制）							

○定時制課程　県立　松阪工業高校　40 人　普通科

○通信制課程　県立　松阪高校　200 人　普通科

（参考）

		学校名	大学科	入学定員		1	2	3	4	5	6	7	8
伊勢志摩地域全日制課程	県立	宇治山田高校	普通科	160	1,120	普通科	普通科	普通科	普通科				
		伊勢高校	普通科	280		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	国際科学コース	
		伊勢工業高校	専門学科	160		機械科	機械科	建築科	電気科				
		宇治山田商業高校	専門学科	160		商業科	商業科	情報処理科	国際科				
		明野高校	専門学科	160		生産科学科	食品科学科	生活教養科	福祉科				
		南伊勢高校 度会校舎	普通科	40		普通科							
		鳥羽高校	総合学科	40		総合学科							
		志摩高校	普通科	40		普通科							
		水産高校	専門学科	80		海洋・機関科	水産資源科						
	私立	皇学館高校	普通科	315	545	普通科（特別進学コース、進学コース）							
		伊勢学園高校	普通科	230		普通科（特別進学コース、選択コース[情報ビジネス・生活デザイン・進学※]、看護医療コース）							

全２８学級

普通科　１３
専門学科　１４
（工業４）
（商業４）
（農業２）
（家庭１）
（福祉１）
（水産２）
総合学科　１

※2年次からの選択コース

○定時制課程　県立　伊勢まなび高校　120 人　普通科：午前の部40人、午後の部40人、ものづくり工学科40人（夜間）

○通信制課程　私立　英心高校（伊勢本校）　110 人　普通科：（全日型、水曜、土曜の各コース）

私立　代々木高校　400 人　普通科：（通学コース、通信一般コース等）

○高等専門学校　国立　鳥羽商船高等学校　140 人　商船学科（40）、情報機械システム工学科（100）

※大学科の普通科には普通科系専門学科を含む

再掲資料５

松阪地域の県立高校に関するアンケート結果について

１　生徒を対象としたアンケート結果

（１）高校選びで重視すること（問６）

「通学のしやすさ・距離」(49.3%)、「学校の雰囲気・イメージ」(49.0%) に続いて、「文化祭や体育祭などの学校行事が充実している」(42.4%)、「学びたい学科やコースがある」(39.5%)、「入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている」(35.7%) の順となっている。

（２）高校に期待する教育（問８）

高等学校には、「自ら学び続ける力が身につく教育」(52.6%)、「基本的な知識が身につく教育」(43.1%) をはじめ、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育」(42.0%)、「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」(40.1%) を期待している。

（３）希望する学級数について（問 10）

多い順に「４～６学級」(42.1%)、「２～３学級」(36.3%)、「１学級」(18.0%)、続いて「７学級以上」(3.7%) となっている。

（４）通学時間について（問 11）

多い順に「60 分以内まで」(51.1%)、「30 分以内まで」(28.9%)、「90 分以内まで」(13.5%)、「120 分以内まで」(4.1%)、「121 分以上」(2.3%) となっている。

（５）将来就きたい仕事について（問 12）

「まだ決まっていない、わからない」(40.4%) が多く、「健康・スポーツ関係（インストラクター、選手・監督など）」(13.9%)、「医師、看護師、薬剤師など」(11.4%) と「理容、美容関係」(11.4%) と続いている。

（６）将来生活する場所について（問 14）

「まだ決まっていない、わからない」(32.5%) が最も多く、続いて、「県外」(20.6%)、「一度は地元を離れても、いつかは戻りたい」(18.7%)、「地元（現在住んでいる市町）」(12.3%) となっている。

２ 保護者を対象としたアンケート結果

（１）高校選びで重視すること（問６）

「学びたい学科やコースがあること」(73.3%) に続いて、「通学のしやすさ・距離」(64.4%)、「自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できること」(59.4%) に続いて、「進学・就職の実績」(39.5%)、「確かな学力を身につける授業が充実していること」(39.2%)、となっている。

（２）高校に期待する教育（問８）

「自ら学び続ける力が身につく教育」(61.0%) をはじめ、「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」(60.7%)、「自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育」(53.6%)、「多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育」(49.0%) を期待している。

（３）希望する学級数について（問 10）

多い順に「４～６学級」(45.4%)、「２～３学級」(36.9%)、「１学級」(11.9%)、続いて「７学級以上」(5.8%) となっている。

（４）通学時間について（問 11）

多い順に「60 分以内まで」(66.4%)、「30 分以内まで」(24.1%)、「90 分以内まで」(8.3%)、「120 分以内まで」(0.9%)、「121 分以上」(0.2%) となっている。

（５）将来生活する場所について（問 12）

「本人の希望次第」(71.2%) が最も多く、続いて、「地元（現在住んでいる市町）」(9.1%)、「一度は地元を離れても、いつかは戻ってほしい」(6.8%) となっている。

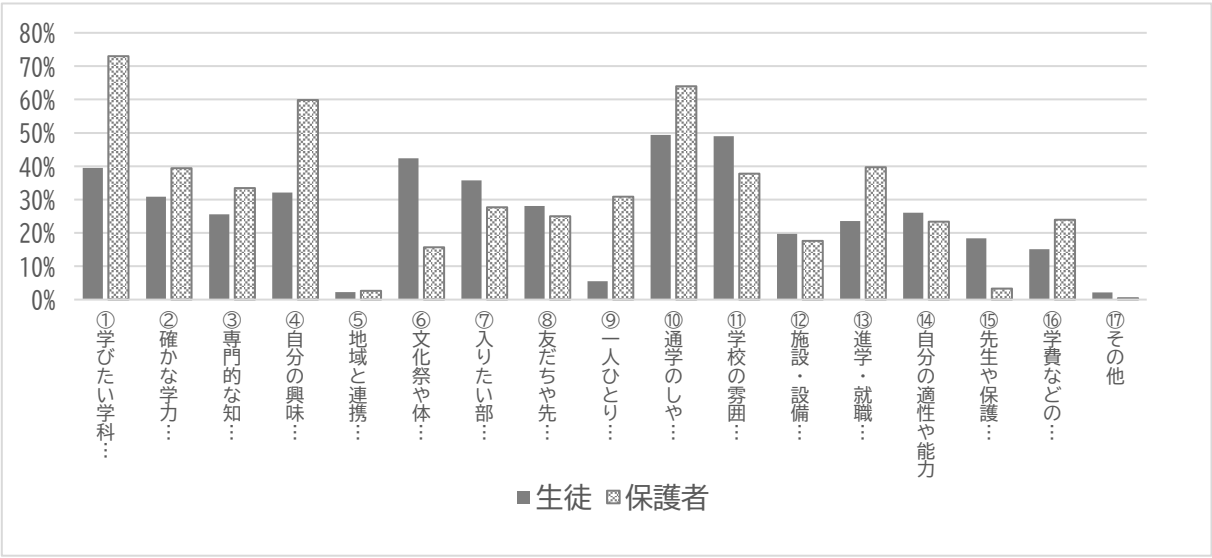
（６）今後の松阪地域の県立高校のあり方について（問 13）

今後の松阪地域の高校については、「一定の統合は避けられない」(68.4%) が最も多く、続いて「統合は避けるべき」(27.0%)、「積極的に統合を進めるべき」(4.5%) となっている。

3　生徒と保護者の回答の比較

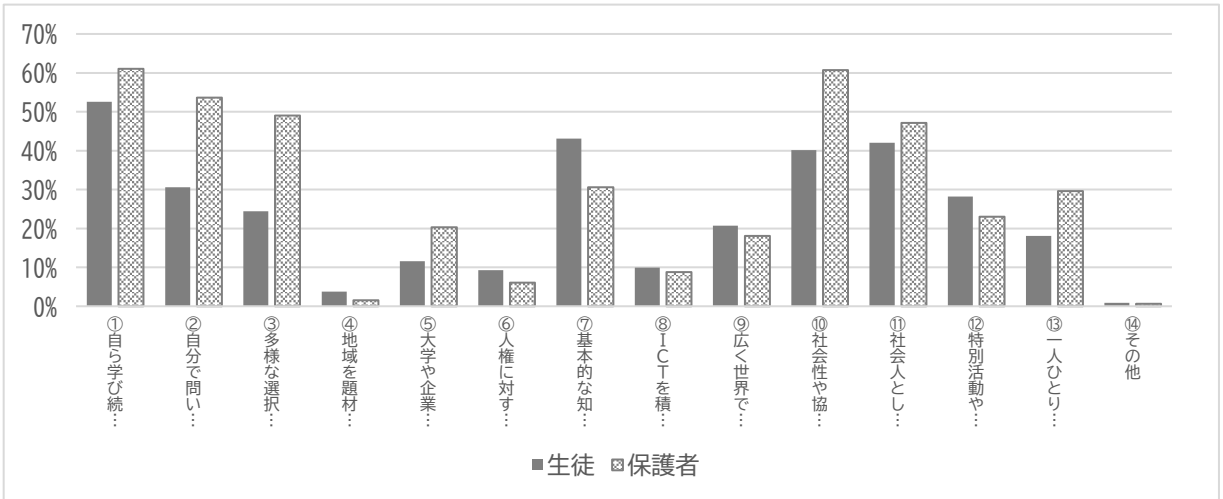
（１）高校選びで重視すること（回答は６つ以内、％は各回答者数に対する割合、〇数字は多い順）

項目＼対象	生徒（1,459 人）		保護者（1,851 人）	
①　学びたい学科やコースがある	④ 576	*39.5%*	①1,357	73.3%
②　確かな学力を身につける授業が充実している	⑦ 450	*30.8%*	⑤ 725	39.2%
③　専門的な知識や技能、資格が習得できる	⑩ 373	*25.6%*	⑦ 615	33.2%
④　自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる	⑥ 468	*32.1%*	③1,100	59.4%
⑤　地域と連携した活動が充実している	⑯ 33	*2.3%*	⑯ 51	2.8%
⑥　文化祭や体育祭などの学校行事が充実している	③ 618	*42.4%*	⑭ 294	15.9%
⑦　入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている	⑤ 521	*35.7%*	⑨ 522	28.2%
⑧　友だちや先輩、先生などとの多くの出会い	⑧ 409	*28.0%*	⑩ 461	24.9%
⑨　一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる	⑮ 81	*5.6%*	⑧ 589	31.8%
⑩　通学のしやすさ・距離	① 720	*49.3%*	②1,192	64.4%
⑪　学校の雰囲気・イメージ	② 715	*49.0%*	⑥ 708	38.2%
⑫　施設・設備の充実	⑫ 288	*19.7%*	⑬ 310	16.7%
⑬　進学・就職の実績	⑪ 344	*23.6%*	④ 731	39.5%
⑭　自分の適性や能力	⑨ 380	*26.0%*	⑫ 434	23.4%
⑮　先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見	⑬ 268	*18.4%*	⑮ 63	3.4%
⑯　学費などの経費負担	⑭ 220	*15.1%*	⑪ 444	24.0%
⑰　その他	⑰ 31	*2.1%*	⑰ 11	0.6%



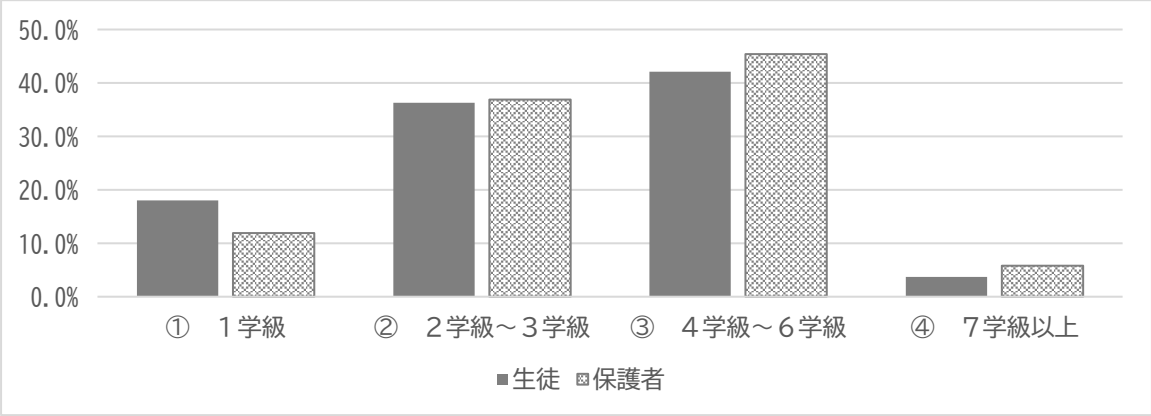
（２）高校に期待する教育（回答は５つ以内、％は各回答者数に対する割合、○数字は多い順）

項目＼対象	生徒（1,459 人）		保護者（1,851 人）	
① 自ら学び続ける力が身につく教育	① 767	52.6%	①1,129	61.0%
② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育	⑤ 447	30.6%	② 993	53.6%
③ 多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育	⑦ 356	24.4%	④ 907	49.0%
④ 地域を題材として学ぶ教育	⑬ 56	3.8%	⑬ 28	1.5%
⑤ 大学や企業等と連携・協働して学ぶ教育	⑩ 169	11.6%	⑨ 376	20.3%
⑥ 人権に対する意識が高まる教育	⑫ 135	9.3%	⑫ 113	6.1%
⑦ 基本的な知識が身につく教育	② 629	43.1%	⑥ 567	30.6%
⑧ ＩＣＴを積極的に活用する教育	⑪ 145	9.9%	⑪ 163	8.8%
⑨ 広く世界で活躍できる力が身につく教育	⑧ 302	20.7%	⑩ 335	18.1%
⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育	④ 585	40.1%	②1,123	60.7%
⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育	③ 613	42.0%	⑤ 871	47.1%
⑫ 特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育	⑥ 411	28.2%	⑧ 426	23.0%
⑬ 一人ひとりの状況に応じて適切な支援が受けられる教育	⑨ 264	18.1%	⑦ 548	29.6%
⑭ その他	⑭ 13	0.9%	⑭ 11	0.6%



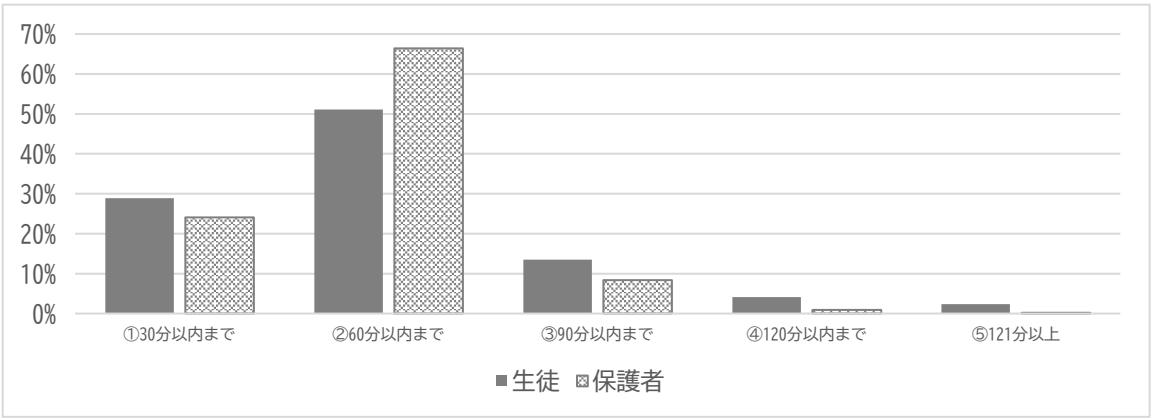
（３） １学年あたりの学級数（回答は１つ、％は各回答者数に対する割合、〇数字は多い順）

項目＼対象	生徒（1,459 人）		保護者（1,852 人）	
①　１学級（40 人）	③ 262	*18.0%*	③ 220	*11.9%*
②　２学級～３学級（80 人～120 人）	② 529	*36.3%*	② 684	*36.9%*
③　４学級～６学級（160 人～240 人）	① 614	*42.1%*	① 841	*45.4%*
④　７学級以上（280 人～）	④ 54	*3.7%*	④ 107	*5.8%*



（４）進学したい高校までの通学時間（回答は１つ、％は各回答者数に対する割合、〇数字は多い順）

項目＼対象	生徒（1,459 人）		保護者（1,850 人）	
①　３０分以内まで	② 422	*28.9%*	②　446	*24.1%*
②　６０分以内まで	① 746	*51.1%*	①1,229	*66.4%*
③　９０分以内まで	③ 197	*13.5%*	③　154	*8.3%*
④　１２０分以内まで	④　60	*4.1%*	④　17	*0.9%*
⑤　１２１分以上	⑤　34	*2.3%*	⑤　4	*0.2%*



４　生徒と保護者の回答の比較より

（１）「高校選びで重視すること（17 個の選択肢から６つ以内で選択）」について

（ア）生徒、保護者の両者で各上位６つに選択された項目のうち、共通するもの

①学びたい学科やコースがある

生徒４位 576 人(39.5%)、保護者１位 1,357 人(73.3%)

④自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる

生徒６位 468 人(32.1%)、保護者３位 1,100 人(59.4%)

⑩通学のしやすさ・距離

生徒１位 720 人(49.3%)、保護者２位 1,192 人(64.4%)

⑪学校の雰囲気・イメージ

生徒２位 715 人(49.0%)、保護者６位 708 人(38.2%)

（イ）生徒、保護者のどちらか一方で上位６つに選択された項目

②確かな学力を身につける授業が充実している

生徒７位 450 人(30.8%)、保護者５位 725 人(39.2%)

⑥文化祭や体育祭などの学校行事が充実している

生徒３位 618 人(42.4%)、保護者 14 位 294 人(15.9%)

⑦入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている

生徒５位 521 人(35.7%)、保護者９位 522 人(28.2%)

⑬進学・就職の実績

生徒 11 位 344 人(23.6%)、保護者４位 731 人(39.5%)

〈 参 考 〉

生徒、保護者で下位２つ(その他を除く)に選択された項目

⑤地域と連携した活動が充実している

生徒 16 位 33 人(2.3%)、保護者 16 位 51 人(2.8%)

⑨一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる

生徒 15 位 81 人(5.6%)、保護者８位 589 人(31.8%)

⑮先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見

生徒 13 位 268 人(18.4%)、保護者 15 位 63 人(3.4%)

（２）「高校に期待する教育（14 個の選択肢から５つ以内で選択）」について

（ア）生徒、保護者の両者で各上位５つに選択された項目のうち、共通するもの

①自ら学び続ける力が身につく教育

生徒１位 767 人(52.6%)、保護者１位 1,129 人(61.0%)

②自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育

生徒５位 447 人(30.6%)、保護者２位 993 人(53.6%)

⑩社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育

生徒４位 585 人(40.1%)、保護者２位 1,123 人(60.7%)

⑪社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育

生徒３位 613 人(42.0%)、保護者５位 871 人(47.1%)

（イ）生徒、保護者のどちらか一方で上位５つに選択された項目

③多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育

生徒７位 356 人(24.4%)、保護者４位 907 人(49.0%)

⑦基本的な知識が身につく教育

生徒２位 629 人(43.1%)、保護者６位 567 人(30.6%)

〈 参 考 〉

生徒、保護者で下位２つ(その他を除く)に選択された項目

④地域を題材として学ぶ教育

生徒 13 位 56 人(3.8%)、保護者 13 位 28 人(1.5%)

⑥人権に対する意識が高まる教育

生徒 12 位 135 人(9.3%)、保護者 12 位 113 人(6.1%)

（３）「１学年あたりの学級数（１つ選択)」について

生徒、保護者とも「４～６学級」（生徒 42.1%、保護者 45.4%）と最も多く、次いで「２～３学級」（生徒 36.3%、保護者 36.9%)、「１学級」（生徒 18.0%、保護者 11.9%）と続いている。

（４）「進学したい高校までの通学時間（１つ選択)」について

生徒、保護者とも「60 分以内まで」（生徒 51.1%、保護者 66.4%)、「30 分以内まで」（生徒 28.9%、保護者 24.1%）と続き、さらに「90 分以内まで」（生徒 13.5%、保護者 8.3%)、「120 分以内まで」（生徒 4.1%、保護者 0.9%）となっている。

再掲資料６

松阪地域の全日制高校の学びの配置状況（令和９年度）

学校名	学科	松阪地域の学び					
		普通	工業	商業	農業	家庭	その他
松阪	普通（7）	普通（5） 理数（2）					
松阪工業	工業（5）		工業化学（1） 機械（1） 繊維デザイン（1） 自動車（1） 電気工学（1）				
松阪商業	商業（4）			総合ビジネス（3） 国際ビジネス（1）			
相可	普通（2） 農業（2） 家庭（1）	普通（2）			生産経済（1） 環境創造（1）	食物調理（1）	
飯南	総合（2）	総合進学		コンピュータ	郷土・環境		介護福祉
昴学園	総合（2）	地域探究			環境技術		総合スポーツ 美術工芸 生活福祉

【備考】
○　（　）内は学級数を示す
○　飯南高校と昴学園高校は総合学科の系列のため学級数とはカウントしない。開設科目により、近い学科に分類
○　学級数は１学年あたりで、１学級４０人ベースの学級数として表示

松阪地域の県立高校卒業生（全日制）の進路状況（令和8年3月卒）

再掲資料７

学校名	学科	四年制大学	短大	専門学校等	就職	その他	卒業者数
松阪	普通 理数	290	3	6	1	17	317
		91.5%	0.9%	1.9%	0.3%	5.4%	100.0%
松阪工業	工業	20	9	22	135	0	186
		10.8%	4.8%	11.8%	72.6%	0.0%	100.0%
松阪商業	商業 国際	57	8	31	51	4	151
		37.7%	5.3%	20.5%	33.8%	2.6%	100.0%
飯南	総合	2	0	12	36	3	53
		3.8%	0.0%	22.6%	67.9%	5.7%	100.0%
相可	普通	43	10	19	4	2	78
		55.1%	12.8%	24.4%	5.1%	2.6%	100.0%
	農業 家庭	7	5	23	74	5	114
		6.1%	4.4%	20.2%	64.9%	4.4%	100.0%
昴学園	総合	16	2	22	20	1	61
		26.2%	3.3%	36.1%	32.8%	1.6%	100.0%

普通科計 （理数科含む）	333	13	25	5	19	395
	84.3%	3.3%	6.3%	1.3%	4.8%	100.0%
専門学科計	84	22	76	260	9	451
	18.6%	4.9%	16.9%	57.6%	2.0%	100.0%
総合学科計	18	2	34	56	4	114
	15.8%	1.8%	29.8%	49.1%	3.5%	100.0%
合計	435	37	135	321	32	960
	45.3%	3.9%	14.1%	33.4%	3.3%	100.0%

※上段は人数、下段は卒業者数に対する割合を表す
※「四年制大学」は大学校を含む
※「短大」は高専を含む
※「その他」は進学待機を含む

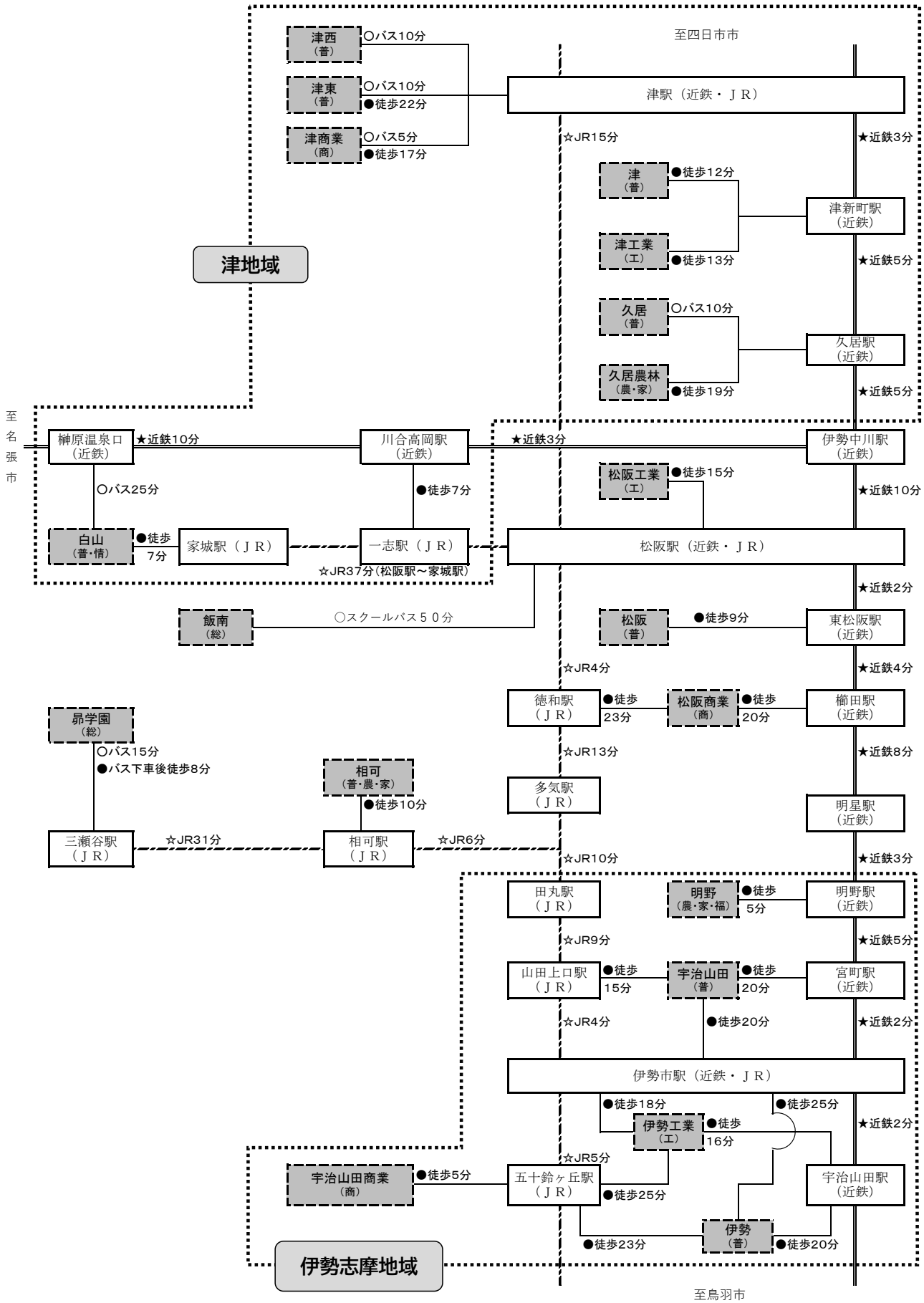
松阪地域の県立高校卒業生（全日制）の進路状況（令和7年3月卒）

学校名	学科	四年制大学	短大	専門学校等	就職	その他	卒業者数
松阪	普通 理数	248	2	3	1	17	271
		91.5%	0.7%	1.1%	0.4%	6.3%	100.0%
松阪工業	工業	29	13	18	130	3	193
		15.0%	6.7%	9.3%	67.4%	1.6%	100.0%
松阪商業	商業	35	9	55	53	4	156
		22.4%	5.8%	35.3%	34.0%	2.6%	100.0%
飯南	総合	2	6	15	41	2	66
		3.0%	9.1%	22.7%	62.1%	3.0%	100.0%
相可	普通	32	13	27	8	0	80
		40.0%	16.3%	33.8%	10.0%	0.0%	100.0%
	農業 家庭	7	4	11	79	1	102
		6.9%	3.9%	10.8%	77.5%	1.0%	100.0%
昴学園	総合	15	3	15	23	4	60
		25.0%	5.0%	25.0%	38.3%	6.7%	100.0%

普通科計 （理数科含む）	280	15	30	9	17	351
	79.8%	4.3%	8.5%	2.6%	4.8%	100.0%
専門学科計	71	26	84	262	8	451
	15.7%	5.8%	18.6%	58.1%	1.8%	100.0%
総合学科計	17	9	30	64	6	126
	13.5%	7.1%	23.8%	50.8%	4.8%	100.0%
合計	368	50	144	335	31	928
	39.7%	5.4%	15.5%	36.1%	3.3%	100.0%

県立高等学校（全日制）への通学時間の目安

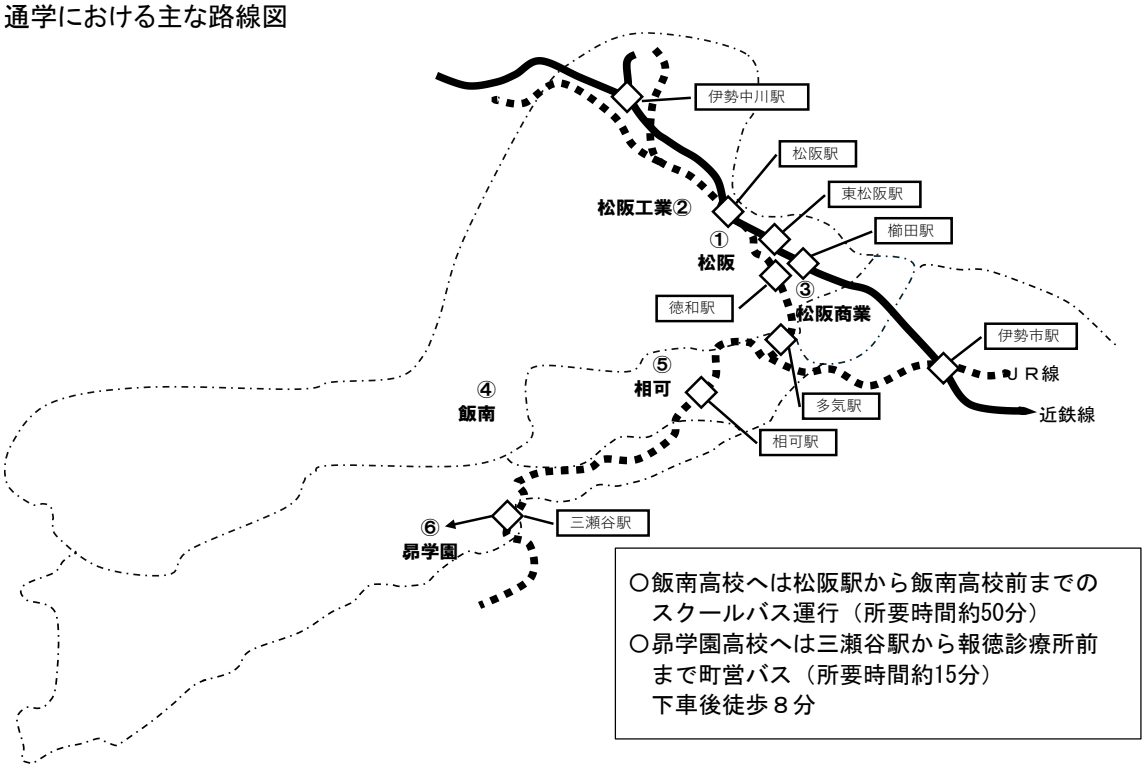
再掲資料8



松阪地域の県立高等学校（全日制）への交通手段等

再掲資料９

（1）通学における主な路線図



（2）通学方法別生徒数と割合

R8．5．1 学校基本調査より

通学方法＼学校名		松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昴学園	合計
徒歩のみ		19	21	7	1	17	150	215
		2.3%	3.6%	1.5%	0.5%	3.0%	81.5%	7.5%
自転車のみ		383	285	223	26	168	5	1,090
		45.6%	48.4%	47.6%	12.6%	29.4%	2.7%	38.1%
JRのみ		4	56	7	0	77	0	144
		0.5%	9.5%	1.5%	0.0%	13.5%	0.0%	5.0%
私鉄のみ		192	92	24	0	0	0	308
		22.9%	15.6%	5.1%	0.0%	0.0%	0.0%	10.8%
バスのみ		35	16	0	108	86	7	252
		4.2%	2.7%	0.0%	52.2%	15.0%	3.8%	8.8%
船のみ		0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
JRと	私鉄	10	0	0	0	3	0	13
		1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%
	バス	1	5	0	1	31	19	57
		0.1%	0.8%	0.0%	0.5%	5.4%	10.3%	2.0%
	船	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	自転車	72	44	52	2	57	0	227
		8.6%	7.5%	11.1%	1.0%	10.0%	0.0%	7.9%
私鉄と	バス	7	2	0	6	48	0	63
		0.8%	0.3%	0.0%	2.9%	8.4%	0.0%	2.2%
	船	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	自転車	104	56	120	0	5	0	285
		12.4%	9.5%	25.6%	0.0%	0.9%	0.0%	10.0%
バスと	船	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	自転車	7	5	20	48	32	3	115
		0.8%	0.8%	4.3%	23.2%	5.6%	1.6%	4.0%
船と	自転車	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他（車送迎、3つ以上の交通機関等）		5	7	15	15	48	0	90
		0.6%	1.2%	3.2%	7.2%	8.4%	0.0%	3.1%
合計		839	589	468	207	572	184	2,859

(3)通学費用別生徒数と割合

R8. 5. 1 学校実態調査より

費用＼学校名	松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昴学園	合計	積み上げ
不要	405	313	243	40	216	155	1,372	1,372
	48.3%	53.1%	51.9%	19.3%	37.8%	84.2%	48.0%	48.0%
3,000円以内	37	15	9	1	6	7	75	1,447
	4.4%	2.5%	1.9%	0.5%	1.0%	3.8%	2.6%	50.6%
5,000円以内	213	121	111	2	49	12	508	1,955
	25.4%	20.5%	23.7%	1.0%	8.6%	6.5%	17.8%	68.4%
7,000円以内	73	75	59	1	66	0	274	2,229
	8.7%	12.7%	12.6%	0.5%	11.5%	0.0%	9.6%	78.0%
9,000円以内	29	25	20	4	73	2	153	2,382
	3.5%	4.2%	4.3%	1.9%	12.8%	1.1%	5.4%	83.3%
11,000円以内	23	11	9	9	71	5	128	2,510
	2.7%	1.9%	1.9%	4.3%	12.4%	2.7%	4.5%	87.8%
13,000円以内	19	8	9	1	30	3	70	2,580
	2.3%	1.4%	1.9%	0.5%	5.2%	1.6%	2.4%	90.2%
15,000円以内	22	13	6	79	32	0	152	2,732
	2.6%	2.2%	1.3%	38.2%	5.6%	0.0%	5.3%	95.6%
15,001円以上	18	8	2	70	29	0	127	2,859
	2.1%	1.4%	0.4%	33.8%	5.1%	0.0%	4.4%	100.0%
合計	839	589	468	207	572	184	2,859	2,859

※通学費用は1か月あたりの費用

(4)通学時間別生徒数と割合

R8. 5. 1 学校実態調査より

時間＼学校名	松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昴学園	合計	積み上げ
15分以内	195	124	34	24	65	151	593	593
	23.2%	21.1%	7.3%	11.6%	11.4%	82.1%	20.7%	20.7%
30分以内	269	190	163	22	127	10	781	1,374
	32.1%	32.3%	34.8%	10.6%	22.2%	5.4%	27.3%	48.1%
45分以内	196	134	146	32	141	8	657	2,031
	23.4%	22.8%	31.2%	15.5%	24.7%	4.3%	23.0%	71.0%
60分以内	134	93	73	77	120	9	506	2,537
	16.0%	15.8%	15.6%	37.2%	21.0%	4.9%	17.7%	88.7%
90分以内	32	37	45	50	92	4	260	2,797
	3.8%	6.3%	9.6%	24.2%	16.1%	2.2%	9.1%	97.8%
120分以内	10	6	7	2	18	2	45	2,842
	1.2%	1.0%	1.5%	1.0%	3.1%	1.1%	1.6%	99.4%
121分以上	3	5	0	0	9	0	17	2,859
	0.4%	0.8%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	0.6%	100.0%
合計	839	589	468	207	572	184	2,859	2,859

※通学時間は片道の所要時間

(5)自宅外通学生徒数

R8. 5. 1 学校実態調査より

種別＼学校名	松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昴学園	合計
下宿	7	9	2	0	12	0	30
寄宿舎	0	0	0	0	0	143	143
合計	7	9	2	0	12	143	173

再掲資料１０

令和 22 年度までの松阪地域の県立高等学校（全日制）の総学級数について

令和８年度（現高１）	令和 10 年度（現中２）	令和 11 年度（現中１）	令和 15 年度（現小３）	令和 22 年度
地域の中学校卒業者数	地域の中学校卒業予定者数	地域の中学校卒業予定者数	地域の中学校卒業予定者数	地域の中学校卒業予定者数
1,811 人	1,760 人（R8 年度比▲51）	1,571 人（R8 年度比▲240）	1,485 人（R8 年度比▲326）	1,010 人（R8 年度比▲801）
25 学級	**24 学級程度**	**20 学級程度**	**18 学級程度**	**10～13 学級程度**

松阪高校	（普７）
松阪工業高校	（専５）
松阪商業高校	（専４）
相可高校	（普２・専３）
飯南高校	（総２）
昴学園高校	（総２）

松阪地域の県立高校（全日制）

松阪地域の県立高校（全日制）

遅くとも３年前の令和８年度までに学級減への対応方針を決定

松阪地域の県立高校（全日制）

松阪地域の県立高校（全日制）

※令和 22 年度は昨年度のデータを使用。
データ更新後改めて資料提示します。

３　年　：　５　学　級　程　度　減

１１年：７～１０　学　級　程　度　減

